

幸福度

「日本一幸せ」な県は、どこなのでしょう？

法政大学院の坂本光司教授は先頃、「47都道府県の幸福度に関する研究結果」を発表しましたが、それによると福井県民が一番幸せという結果になったそうです。

また、上位3県は福井県、富山県、石川県と、いずれも北陸の県でした。ちなみに、最下位は大阪府とのことで、橋下さんはきっと頭に来ているでしょうね。

私は、北海道に生まれ、北海道で暮らしていて十分幸せだと思っていますが、坂本教授の研究結果によれば、北海道は残念な事に「幸福度」43位ということになっています。北海道に住んでいて、北海道が大好きという人にとっては、何故という感じが強いかも知れません。

その理由は、「幸福度」それ自体にありそうです。

坂本教授の調査研究の目的は、経済力や生産力による指標ではなく「幸福度」を数値化しようというところにあるようです。今回の研究調査では、様々な社会経済統計の中から、地域住民の「幸福度」を端的に示していると思われる40の指標を基に評価し、ランキングしたとのことです。40の指標として選ばれたのは、出生率や未婚率、生活保護率などの生活・家族部門、離婚率や労働時間、正社員比率などの労働・企業部門、刑法犯認知件数や交通事故件数、老人福祉費などの安全・安心部門、そして医療費や病床数、自殺死亡者数などの医療・健康部門の4部門で構成されています。

「幸福度」1位の福井県は、未婚率が低く、出生率が高いこと。障害者の雇用率や正職員比率も高いことなどが評価されたとしています。また、同じく2位の富山県は、自然環境に恵まれ、趣味や娯楽に費やす時間が長いこと、3位の石川県は、失業者が少なく弱者向けの政策が行き届いていることなどがそれぞれ評価された結果とされています。これに対して大阪府は、生活保護受給者

の多さや治安の悪さから、厳しい結果となったようです。

今回の「幸福度」調査と生活保護率とを対比すると、「幸福度」が高いとの評価を得た県は、生活保護率は概ね低く、逆に「幸福度」が低いとされた県は生活保護率が高いという状況にあります。ちなみに、北海道の生活保護率は、全国第2位（本年7月）となっています。

ただ、どれ程多くの指標を調査分析しても、そこから見えてくるのは、それぞれの地域での暮らしやすさとか快適さといったものです。それらの指標については評価が高い方が良いに越したことはありませんが、そのことと幸福感とはどう結びつくのでしょうか。

「結婚していて、子どもがいて、大きな家に住み、経済的にゆとりがあり、健康である」こういう人がいたら、多分、自分は不幸だとは思わないでしょう。ただ、不幸でなければ幸福かという、人間はそう単純ではありません。

一方、「病気がちで収入がなく、住む家もない。生活保護でやっと凌いでいる」という人がいたら、その人は勿論、自分は幸福だとは思わないでしょう。だからといって、その人を、私が「あなたは不幸な人だ」と決めつけることができるでしょうか。

坂本教授は、「幸せ度は、住む人々の努力で変えられると思う。」と述べておられます。まさしくその通りで、お金は十分あるのになお飢餓感に苛まされている人がいる一方で、お金はなくても充実した日々を送っている人もいます。こうした心の有り様を数値化しようという試みは、結果について共感を得るのは難しいように思います。（塾頭 吉田 洋一）